

熊谷ゼミ「ゼミ生の声」



○長孝幸 (22JP1079)

みなさん、こんにちは！年度によって多少の違いはあるようですが、今年度は話題の映画や小説ではなく、古代ギリシアの思想がテーマです。古代アテナイの法廷弁論やプラトン『ソクラテスの弁明』、ホメロスの叙事詩『イリアス』などを読み進めています。

毎週、参加者全員が課題文献を読んでもらうのですが、そのうち一人の報告者が課題部分の内容を要約し、重要な語句をまとめて報告します。少し大変ですが、いつか何かの力になると信じています。グループワークもありまして、先生からの質問についてグループで話し合います。ずっと1人ではないので安心です。

少人数制のゼミのため、先生とも距離が近く、普通の授業とはずいぶん違う印象を受けます。興味があるテーマについて先生と話してみるのも、楽しいかもしれません。熊谷ゼミは超人気某ゼミよりは人数が少ないので、そういう人たちにとっては良いかもしれません。

最後に、熊谷先生は古代ギリシア語が話せるらしいので、誰かギリシア語で話しかけてみてください。

○小田夏未 (22JP1013)

熊谷ゼミのなにより良いところは、文献読解力・解釈力・文章力・発表力を身に着ける

ことができるという点です。

参加者はコメントペーパーを毎回提出するほか、学期中に報告を一回行います。ゼミ生全員で先生が指定した課題文献を読み進めていくのですが、今年度は、古代アテナイの法廷弁論や、ホメロスの叙事詩『イリアス』を読んでいます。

報告者は他の参加者に配布する詳しいレジュメとは別に、報告用の短いレジュメ（A4 サイズ）を用意して報告するので、要点を的確にまとめる力が求められます。また、先生からは文献の内容についていろいろ質問されるため、文献の読解力に加え、時代背景や文化についても下調べが必要です。ただし、わからないときには先生がヒントや解説をしてくれるため、決して厳しい雰囲気というわけではありません。そこは安心してくださいね！



吉田航大（22JP1096）

熊谷ゼミの参加者は毎週事前に課題文献を読み、コメントペーパーを書いて授業に臨みます。春学期の課題文献は古代アテナイの法廷弁論、秋学期の課題文献はホメロスの叙事詩『イリアス』です。

授業では、各自が持ち寄ったコメントペーパーを元にグループ・ディスカッションをしています。ディスカッションといっても、感想の共有や質問疑問の答えを一緒に探るとい

った感じで、難しいことは特にありません。また、各回 1 人の報告者を決め、その人に文献の報告をしてもらっています。基本的に各学期に 1 人 1 回報告をします。報告の際には、コメントペーパーの他にレジюмеや用語集を作ることになります。報告時間は 20 分程度と長くはありませんが、読解力はある程度必要になるかと思います。

ゼミの規模としては、現在 9 人と比較的少ないです。そのため、ゼミ生同士、あるいは学生と先生の距離も近いです。毎週のコメントペーパーや報告時のレジюме作成を通じて書く力も身に付くので、他の授業でのレポート等に活かせると思います。私自身、大人数のゼミよりも少人数のゼミが良いと思っていました。同じ思いを持っている方達に、熊谷ゼミはとてもおすすめです！



平野絢菜 (22JP1162)

熊谷ゼミでは、課題文献を精読し、文献を細部まで理解することをめざします。毎回、

全員が課題文献に関する疑問点や論点をまとめたコメントペーパーを用意し、それをもとに議論します。また、そのほかに報告者は文献の要約レジュメや用語リストを作成します。この作業を通じて、報告者は課題文献の内容をより深く理解することができるようになります。

秋学期には、ギリシア最古の叙事詩、ホメロスの『イリアス』を読み進めています。文章中の言葉や表現がしばしば難しく、最初は苦勞しますが、徐々に慣れてくると読解の速度が上がりました。また、文献を細部まで丁寧に読みこむ必要があるため、読書の精度も向上します。私は今まで読書をあまりしてこなかったのですが、ゼミへの参加を通じて、精読の大切さを知ることができました。疑問点や背景知識などは先生が説明してくれます。また、ゼミの冒頭では、課題部分の感想をグループで話し合うのですが、自分自身では思いつかなかった論点や疑問点を知ることができるので、とても面白いです。文章を読む力や理解する力は、今後様々な場面において役に立つため、読書好きの方はもちろん、読書をあまりしてこなかった方にもおすすめです。本を読み進めながらたくさんメモをすると、大きな達成感を感じられますよ。

鵜木慶太 (22JP1026)

今年度の熊谷ゼミでは毎週、古代ギリシアに関する文献を講読しています。毎週課題文献を読み、コメントペーパーを作成して議論をし、古代ギリシアの政治について理解を深めています。当初、文献を読んでコメントペーパーを作成するのはなかなか難しかったのですが、慣れてくると読解力も身につく、本を読むのが楽しくなってきました。

他の政治学科の授業ではあまり読むことがない文献をたくさん読むことができるので、いわゆる「政治」に関心がない方にもおすすめです。先生が面白い課題文献を用意してくださるので、楽しみながら学ぶことができます。課題の量もそこまで多くないため、他の授業や部活、アルバイトと両立しながら参加することもできます。加えて、毎週グループに分かれて議論するため、自然とゼミ生同士も仲良くなります。講義形式の「政治学原論」とは異なり、ゼミでは先生との距離も近く、疑問点をすぐに質問したり、興味があるテーマについて話すこともできます。

渡辺愛渉 (22JP1089)

熊谷ゼミでは「政治学原論」の知識を活かして古代ギリシアの思想を学んでいます。しかし、「身近とはいいがたい古代ギリシアについて、なぜ学ぶのだろう？」と思う人は少なくないかもしれません。そこで熊谷ゼミの魅力を2つお伝えしたいと思います。

第一に、政治に関する知識のない初心者でも入りやすいという点です。政治学科に所属してはいるけれど、政治が全くわからないという方も正直なところ、少なくないのではないのでしょうか。しかし心配無用です。熊谷ゼミでは豊富な予備知識がなくとも、課題に取り組み、理解を深めることができます。

第二に、毎週の課題が適量で心に余裕が生まれる点です。私は体育会に所属し、そのうえ教職課程を取っているため、他の学生より圧倒的に忙しいのですが、それほど苦勞することなく課題をこなせています。また、金銭的にも無理がありません。毎週文庫本を買わなければならないゼミがあるそうですが、熊谷ゼミでは多くとも、一学期に購入するのはせいぜい文庫本 1 冊程度です。それ以外の課題文献については先生の方で配布していただけますので、安心して授業に集中できます。

茂田真琴 (22JP1021)

私が熊谷ゼミへの参加を通じて感じたことは 2 つあります。

まず第一に、課題文献が直接政治に関連するものではないため、関心が持ちやすいという点です。今学期は古代ギリシアの叙事詩『イリアス』を読み進めているのですが、文学という観点から「政治を読む」体験ができていますと感じます。毎回思考を掘り下げ、ゼミ生同士で意見を共有することで、身近なところから政治の世界について理解を深めることができます。歴史や文学・思想が政治と結びつき、つねに新しい発見があります。このゼミで得られる批判的思考や分析力は、今後の就活などでも活かすことができると思っています。

第二に、比較的少人数のゼミなので、自分の意見や考えを発言しやすく、また他人の意見にもより耳を傾けやすいという利点が挙げられます。毎回グループに分かれて意見や感想を交換し、そのうえで先生が指導してくれるのですが、この授業形態は問題への理解を深めるうえで非常に良いと思っています。熊谷ゼミの先輩方も少人数制の利点を挙げていましたが、参加者一人一人の意見を掘り下げながら授業を進めるというスタイルは、自分にとても合っているようです。

